

開催月日 : 平成 28年 6月 27日

平成28年度第1回
定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス連携推進会議

時 間	am/pm 10:00	am/pm 11:00	場 所	かんだ連雀B2会議室
司 会	峯 俊美		書 記	尾崎 正紀
出席者	○千代田区高齢介護課介護事業指定係：●●●●●様、●●●●●様			
	○千代田区社会福祉協議会：●●●●●様			
	○千代田区高齢者あんしんセンター：高橋誠様(神田地区)			
	○千代田区かがやきプラザ：我妻亜弥乃様			
	○医療機関：●●●●●様(三楽病院)、●●●●●様(杏雲堂病院)			
	○訪問看護：●●●●●様(九段訪問看護ステーション・連携)			
	●●●●●様(神田訪問看護ステーション・連携)			
	○知見を有する者：●●●●●様、●●●●●様、●●●●●様、澁谷直子様			
	○地域住民の代表者：●●●●●様、●●●●●様			
	○指定事業者 かんだ連雀いつでもサポートサービス：峯俊美、浅見達也、和泉久美子、尾崎正紀			
会議内容	① 開会の挨拶 かんだ連雀：峯俊美			
	② 取り組み事例発表 かんだ連雀いつでもサポートサービス：浅見達也			
	③ 今年度の取り組みについて かんだ連雀いつでもサポートサービス：浅見達也			
	④ ご出席者皆様よりご意見・講評			
	⑤ 閉会の挨拶 かんだ連雀：峯俊美			
	詳細	② ●平成28年5月度定期巡回・随時訪問介護看護実績報告(詳細は別紙①参照)		
取り組み事例発表 ●連携推進会議資料(詳細は別紙②参照)				

詳 細
① 開会の挨拶
かんだ連雀：峯俊美
○定期巡回・随時対応型訪問介護看護をスタートしてから4年が経過し、かんだ連雀でも定期巡回を展開して4年目を迎えようやく形作られて参りました。
今年度より、この連携推進会議は各事業所別々での開催とさせていただきます。
② 実績報告
かんだ連雀いつでもサポートサービス：浅見達也
○平成28年5月度定期巡回・随時訪問介護看護実績報告（別紙①参照）
取り組み事例発表
かんだ連雀いつでもサポートサービス：浅見達也
○資料説明（別紙②参照）
3年目までは手探りの状態で、訪問介護事業との違いや、本サービスの柔軟なサービスという特性を生かし居宅プランのサービス内容だけではなくアセスメントに基づいた援助内容の変更など、試行錯誤してきましたが、4年目に入り、「生活環境を構築する」には、ご本人の生活環境や習慣を熟知しなければならないこと、そのために、アプローチ方法を日々模索しながら取り組んできました。
援助依頼が身体面だけの場合でも、生活面の援助も必要ではないか等、アセスメントを行なうことで「生活環境の構築」につなげています。
○事例発表（別紙②参照）
本サービスの到達点は、例えばデイサービスの送り出しでの援助で、ヘルパーが入った時には、既にその日の予定を把握し、服薬や身支度が自分で準備できているようになる。毎日出来ていれば本サービスを利用する必要もなくなります。そのためには、一連の動作が重要になってきます。どのような部分に問題があり、寄り添う必要があるのか個人を理解していないと援助が困難になります。その為の、アセスメントの取り方は、朝1回の援助だけでなく、様々な時間帯に随時訪問し生活状況を観察してきました。そういった柔軟な対応ができるのが本サービスの強みであるため、今回は服薬に特化した事例を紹介させて頂きました。
●●●●●様（連携）神田訪問看護ステーション
○認知症の初期症状の表れ方はさまざま。看護としては薬のことなので分包、飲み忘れよりも飲みすぎになることの方が心配。安全面から考えれば「行動できない」との評価を、「あまえ」と捉えない。薬カレンダーの認識が可能か、曜日の欠落などは病気の症状なので客観的な視線が必要。
③ 今年度の取り組みについて
かんだ連雀：峯俊美
○今まで行っていたこと考え方を改めてみました。服薬について特化した事例説明をしましたが本人は認知症があっても薬が飲めない状態であることは認識していた。服薬して頂くことは生命の存続にとって重要なこと。前年度までは服薬して頂くことのために援助に入っていた。本年度からは利用者の生活全体を見直し、本人が出来ないだろうと思っていたことでも実際には出来ていることもあることがわかってきた。「洋服を着替えて」と促しても出来ていなかったが「洋服は洋服ダンスに入っていますよ」と促すことで点と点がつながり、着替えが出来た事例もあり

ます。声掛けを工夫すれば出来る事が増えるのではないかとこの視点でものを捉えます。
服薬に関しても、今までは薬を手渡しする職員もいれば、「お薬カレンダーに貼ってありますよ」と声掛けする職員もいる。点と点をつなげる工夫さえあれば、本人の生活を構築しやすい環境が作れるのではないかと考えています。本サービスの利用者9名全員を見直しできればいいのですが現状では、今回の服薬をはじめ、食事摂取に問題のある方にどう接すれば食べて頂けるか等、事例ごとに考え方から見直しをかけています。服薬ができないという事例は訪問介護でもあることですので皆様のご意見を頂戴したい。

④ ご出席者皆様よりご意見・講評

●我妻亜弥乃様：千代田区かがやきプラザ

○服薬について、そこまで生活の中に入って見ていくことは多くはない。服薬のアプローチは何名のメンバーで行なっているのか？何故本人に服薬させようと思ったのか？

(→かんだ連雀 浅見) 4月からこのアプローチを試みているので当初は少数のメンバーで始めたが現在では全てのメンバーで同じアプローチになるよう試みている。特養では1日の生活上の姿がわかるが在宅ではわかりにくい。本サービスでは随時訪問により、さまざまな時間を見る事が可能なのでその特性を生かしたい。

●●●●様：向陽ケアマネジメントセンター

○ケアマネジャーからすると、援助を減らしたがるように思っていた。本サービスは使いたい放題のサービスに思われがちだが、全体の生活を想定しながら取り組まれていることがわかり話を聞いてよかった。

●●●●●様：地域住民の代表者

○地域のボランティア活動を日々行っていますが、DS(デイサービス)など専門用語や認知症のこととかは理解しづらい。

④閉会の挨拶

◎次回(9月)の連携推進会議の予定

候補日 平成28年9月13日(火) 10:00~

以上